



平成24年 5月15日
 第 42 号
 埼玉県立春日部高等学校同窓会
 (発行) 今井 宏生
 (編集) 中村 行生 戸井田 哲
 〒344-0061 埼玉県春日部市粕壁5539
 TEL 048-760-1627
 FAX 048-760-1628
 <印刷> 望月印刷(株)
 さいたま市中央区阿弥5-8-36
 TEL 048-840-2112

▼事務局のメールアドレスが変更になりました
 info@kasuko-dosokai.jp

社会の変動に対応し

全面的にリニューアル

春高同窓会のHP(ホームページ)が今年1月28日にリニューアルされたが、その直後からHPへのアクセス数が驚異的に伸び、4月中旬、前年同時期の約3倍と増え、各方面から大きな反響が寄せられている。

春高同窓会のHPは15年前の平成9年5月に開設されたが、当時HPは学校社会にはほとんどなかったもので、全国に広く注目された。しかしその後10数年経過したことから現在のさまざまなニーズに十分に答えられないので、昨年同窓会本部にリニューアルの目的で広報委員会を組織。佐久間健さんや市村克明さん、飯島

40種の事業を展開

SSH活動 3年目に

文部科学省から科学振興事業のひとつとして指定を受けた本校のSSH(Super Science High School)ハイスクールの活動が、すでに3年目を迎えて順調に展開されてきた。2年目の昨年夏には、アメリカ・ボストン市のマサチューセッツ工科大学やボストン大学などで春高生ら16人が広く世界的な研究などの海外研修を行った。同年11月、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の久保田孝教授の特別講演会「はやぶさが挑んだ復讐飛行」が全校生対象に行われ、同教授は小惑星探査機ミッシェンに最初から携わってきた課題を述べ、試行錯誤を繰り返した実験の映像を見せながら宇宙への挑戦を熱く語った上、春高生に7つのメッセージを送った。また高17回の小柏猛さん(JSTブランチ千葉の科学技術コーディネーター)の「な

ぜ今、SSHが必要なのか」という根本的な課題の特別講義や国立環境研究所の中島大介さん(高37回)の特別講義「津波被害地における化学者」や順天堂大学准教授の奈良武司さん(高36回)の特別講義「生存戦略(寄生虫)」、日本航空整備工場見学を山村彰一さん(高34回)の案内で行われた校外研修など40種の事業が展開されてきた。3年目の今年も数多くの事業が計画されているが、特に生徒たちが今から力を注いでいるのが、8月に横浜市で開かれる全国大会での研究発表である。

春高同窓会 ホームページ

6月24日(日)に総会

講演は「宇宙のはなし」



講師の村田泰宏さん

今年と同窓会総会は、恒例の6月第4日曜・6月24日に、本校の音楽ホールで開かれる。総会幹事支部と招待学年の役員による総会準備会が2月4

日に開かれて、たくさんの方に出席していただけるよう具体的な方策を協議した。

【日時】平成24年6月24日(日) 午後2時～同6時

【会場】本校音楽ホール、他

【総会】午後2時～昨年度事業・決算報告、今年度事業・予算案審議、他

【講演】午後3時半～
 演題「宇宙のはなし」スピー

ストユニバースの研究」、講師/村田泰宏さん(高34回、宇宙航空研究開発機構II JAXA宇宙科学研究所)

【懇親会】午後4時半～
 会費自己負担3千円(招待者は除く、当日受付でいただく)

【出席申込】出席者名簿や名札の準備があるので返信用ハガキで早めに申し込んでほしいと事務局では望んでいる。

【ホーム・カミング・デー】総会には「第23回ホーム・カミング・デー」(母校に帰る日)(HCD)として、次の卒業学年が招待される。▽卒業後50年の高15回と定時制15回、岩槻分校普通科11回▽今年50歳になる高33回と定時制33回▽今年40歳になる高43回と定時制43回▽今年30歳になる高53回と定時制53回の皆さん。また平成23年度の賛助金納入の3百19人も招待される。以上の人たちには、記念品を差し上げ、懇親会に招待する。

【講師紹介】宮代町出身。春

高34回卒。東京大学理学部天文学科卒。同大学院理学系研究科天文学専攻。国立天文台野辺山宇宙電波観測所で電波天文学の研究を行う。91年理学博士号を取得。92年から文科省宇宙科学研究所に勤務。05年まで「はるか」プロジェクトに従事。03年に宇宙科学研究所が宇宙航空研究開発機構(JAXA)に統合される。07年6月から「はるか」プロジェクトに続くスペースVLBI計画ASTRO-Gに従事。同計画は11年12月に中止。神奈川県藤沢市に在住。

驚き。HPの威力は「これだ」と思っている」と語っている。

●簡単にアクセスできる
 このHPへの簡単なアクセス法は、ヤフーやグーグルで「春高同窓会」と入力、検索すると、検索結果上部に「春日部高等学校同窓会」のリンク文字が表示されるので、そこからアクセスするとい。春高同窓会HPのアドレスは www.kasuko-dosokai.jp

●新HPの5つの特徴
 ①情報更新が速い
 同窓会(事務局)に集まる情報を簡単に編集・更新できる機能を備えたので、母校のHPと連動した「春高の今」や「活躍する同窓生」について、より多くより速く発信できるようにになった。

②各種の会のニュースも
 各地の春高会(支部)や部活OB会、各回同期会などの開催要項をHP設置の専用フォ

▼同窓会ホームページのリニューアルに続き、特別サイト「多能多彩な同窓生」が今年6月に立ち上がります。これは、各界で活躍する多能多彩な春高同窓生が結集し、母校春高のイメージアップを助け、春高を強くアピールするもの。ぜひ積極的にご登録を。

新校長に工藤先生 (高26)

職員 事
人



工藤倫郎新校長

▼転退職の教職員 (敬称略)

- 《全 日制》
- 松田敏男(校長) 定年退職
- 石渡勇人(数学) 定年退職
- 池田泰(理科・高34回)
- 清水誠(英語) 浦和一女高へ
- 玉島友弘(保健・高34回)
- 熊谷公孝(数学) 松伏高へ
- 榎本貴一(社会) 宮代高へ
- 熊中陽子(数学) 浦和一女高へ
- 植村珠枝(養護) 大宮ろう学園
- 青木恵子(音楽) 越谷高へ
- 金子健一郎(英語) 越谷南高へ
- 湯澤瞳(事務) 上尾特別支援へ
- 《定 時 制》
- 林昭雄(教頭) 久喜高へ
- 松永貴則(国語) 富士見高へ

▼新任の教職員 (敬称略)

- 《全 日制》
- 工藤倫郎(校長・高26回)
- 飛永悟(社会・高26回)
- 松原渉(保健・高27回)
- 奥原浩(数学・高32回)
- 老川由香(数学) 蓮田松韻高
- 田島健男(理科) 新採用
- 新井勝博(数学) 栗橋北彩高へ
- 遠藤羽弓(国語) 大宮北高へ
- 中村伸一郎(社会) 越谷北高へ
- 前橋良子(養護) 任期満了
- 中山浩司(栄養) 蓮田特別支援

- 《定 時 制》
- 池田泰(教頭・高34回)
- 吉野弘美(数学) 幸手高から
- 福見誠(国語) 細田学園から
- 岡祐介(国語) 大宮中央高から
- 宇賀正子(養護) 鴻巣高から
- 渡辺亜里紗(栄養) 騎西特別支
- 川崎勇介(用務) 羽生ふじ学園
- 山崎則子(養護) 栗橋北彩高
- 鳥養千鶴(英語) 大宮商高から
- 木元真由子(音楽) 松伏高から
- 白倉拓未(英語) 新採用
- 大竹英夫(数学) 庄和高から
- 榎本京一(数学) 松伏高から
- 布村浩一(国語・高45) 講師
- 長島拓也(保健・高60) 講師

難関国立大が増加

早大が減り慶応増える

大学入試

今春の大学入試では、大震災の影響を受けた昨年と単純に比較はできないが、国立

大は例年並みの成績を収まる事ができた。進路指導主事の田口雄一先生(高34回)は

- #### 各地で春高会
- ▼幸手春高会総会 25人
 - 23年5月29日 渡辺家
 - ▼上尾伊奈支部総会 30人
 - 23年6月5日 バンケット
 - ▼赤澤東洋さん(高13回)講話
 - ▼三支部(岩槻、大宮、浦和)合同懇親会 107人
 - 23年6月11日 清水園
 - ▼清水勇人さいたま市長講話
 - ▼宮代春高会総会 45人
 - 23年6月12日動物公園GS
 - ▼三遊亭楽生(高48回)落語会
 - ▼吉川支部総会 17人
 - 23年6月25日 福寿家
 - ▼杉戸春高会総会 16人
 - 23年6月25日 白龍
 - ▼八潮春高会総会 18人
 - 23年6月25日 やぶそば

- ▼岩槻支部総会 45人
- 23年7月10日 市民会館
- ▼松永功さん(高6回)講話
- ▼蓮田春高会総会 40人
- 23年9月4日 米屋
- ▼関口茂さん(高14回)講話
- ▼鷲宮春高会総会 15人
- 23年9月24日八甫コミセン
- ▼白岡支部総会 42人
- 23年10月8日 米屋
- ▼県庁春高会懇親会 40人
- 23年10月12日ワシントンH
- ▼野田支部懇親会 52人
- 23年10月15日 紫乃
- ▼飯塚教史さん(高9回)講話
- ▼関西春高会記念総会 31人
- 23年10月15日京都Hオーケラ
- ▼今井宏・木下富雄・青島健太さんらによる野球座談会
- ▼春日部春高会総会 45人

- ▼23年10月23日 やまや新館
- ▼葛蒲春高会総会 13人
- 23年10月30日 大浜
- ▼北海道春高会総会 12人
- 23年11月5日 いっしん
- ▼東京春高会懇親会 50人
- 23年11月11日 KKRホ
- ▼栗橋地区春高会総会 33人
- 23年11月13日 イリス
- ▼長谷川将さん(高10回)講話
- ▼横浜春高会総会 40人
- 23年11月13日 順海閣
- ▼中田雅敏さん(高16回)講話
- ▼庄和春高会総会 27人
- 23年11月26日 庄和飯店
- ▼石川良三春日部市長講話
- ▼幸手春高会忘年会 25人
- 23年12月2日 渡辺家
- ▼三遊亭楽生(高48回)落語会
- ▼松伏春高会総会 25人

- #### 各学年の同期会
- ▼高3 回併1 同期会 57人
 - 23年5月29日越谷コミセン
 - ▼三友会(中4546回) 25人
 - 23年6月10日 岩槻桜茶屋
 - ▼高6 同期会 58人
 - 23年11月8日 やまや新館
 - ▼高8 同期会 50人
 - 24年4月7日 野田幸楽
 - ▼京都府立1(1)▽防衛1▽その他2(1)▽合計128(71)
 - ▼私立▽明治131(67)▽東京理科102(61)▽中央77(25)▽早稲田70(28)▽立教68(35)▽日本58(30)▽法政55(22)▽芝浦工業53(21)▽慶応38(19)▽上智32(11)▽東洋25(8)▽青山学院19(10)▽駒澤16(6)▽東京電機15(9)▽明治学院13(4)▽学習院11(3)▽東京農業10(8)▽立命館9(8)▽武蔵工業9(6)▽武蔵9(2)▽その他19(63)▽合計939(446)

同窓会費納入の方々(23年度)

▼同窓会費1万円納入者 (敬称略)

- 《平成23年4月1日》
- 《上尾》小原勝巳、遁所修、渡部浩典
- 《岩槻》川口博、小島平三郎、小島わか、酒井公洋、佐々木亮吉、清水均、高田善秀、塚本良雄、松田幸子、林一矢、山口畑一
- 《入間》葛岡俊之

- 《浦和》江浪誠、金子康夫、白鳥敏夫、田中和夫、星野敏、森山成久、横田博、和田栄次
- 《大宮》落合靖、勝俣英昭、齋藤英一、渋谷佳孝、針谷敬、古山栄一、宮原多喜男、本橋稔、横手徹
- 《桶川》柳沼兼彦
- 《春日部》新井昭三、大池徹、小川清美、小沼辰明、島崎康彦、白石詮、田中太郎、降田宏、前野隆、山田将也

- 《加須》中山一、橋本貞男
- 《川口》遠藤雅弘、野口隆吉
- 《久喜》折原寛、武井恒知
- 《栗橋》藤本重好
- 《越谷》浅井侃雄、内田雅彦、小栗真司、作山賢一、須藤新、中村頼司、平林清、三浦真人、森田雅吉
- 《幸手》会田研司、遠藤裕久
- 《白岡》大高克彰、黒須忠士、小沼勉
- 《杉戸》岩浪節子、加藤東吾、加藤実、矢野弘子

- 《草加》内田一郎、小野祐一
- 《戸田》前田拓志
- 《野田》飯塚教史
- 《蓮田》関根光二、竹野谷修、谷川渡
- 《深谷》田島文夫
- 《松伏》田口嘉則
- 《三郷》中村英治
- 《宮代》榎本和男、斉藤一男
- 《吉川》杉山敏彦、互静夫
- 《藤》沖宣宏
- 《秋田》龍島和男
- 《茨城》酒井公雄

- 《神奈川》石塚哲夫、蛭田和夫、本間康弘
- 《群馬》高部志朗、日下田雅男
- 《古河》中村嘉男
- 《静岡》長沢聖一
- 《東京》池田昭義、塩沢憲行、上田親男、金井康雄、杉本敦史、田中啓一、八木橋克、吉住英一
- 《千葉》井田マツ子、斎藤城
- 《福岡》山内進
- 《北海道》大平浩司
- 《宮城》高橋勝
- 《横浜》木暮仲夫

- ▼新卒生 13人 百13万円
- ▼卒業生 361人 3百61万円
- ▼会費(1千円) 納入者 百22人 12万2千円
- ▼総計 4百86万2千円
- ▼《お願い》①同窓会費の納入には、この記事への掲載で領収書代わりとさせていただきます。ご了承ください。②同窓会費をまだ納入されていない方は、経済状況の厳しいなか恐縮ですが、ぜひご入金をお願いいたします(事務局)。

6月2日(土)に 大宮支部の総会

- ▽日時 6月2日(土)18時
- ▽会場 さいたま市清水園
- ▽会費 1万円
- ▽申込 高橋正次支部長宅 663-0306

▼ツイッター 同窓会では、同窓生の情報交流のツールとしてツイッター(つぶやき)をはじめました。同窓会ホームページへアクセスし、左下の「春高同窓会Twitter」をクリック。未登録の人はTwitterに登録し、@kasuko_ob をフォローしてください。

10月20日に岩槻で

第2回の「春高ウオーク」



1671年に岩槻城主が設置した時の鐘城下に1日3回時を告げたという

郷土資料館(児玉南柯の遺品類、遷喬館を補足する資料群)へ遷喬館(児玉南柯が1799年に創立した私塾で、後に藩校となる)へ鈴木酒造酒蔵資料館(試飲ができる)の時の鐘(城主阿部正春が1671年に設置し、城下に1

7部が関東に出場

23年度活動

日3回時を知らせた)へ岩槻城門(黒門の名で知られる)へ市民会館いわつきで懇親会(午後3時40分〜5時30分)全行程約4キロ
《参加者》見込み数50〜60人
《ガイド》地方史研究家・飯山實さんら数人
《懇親会》参加費5千円(当日会場で頂戴します)
《申し込み》同窓会だよりへ同封のがきで申し込む。
《共催》春高同窓会本部・岩槻支部

陸上競技部

関東大会▽800米②入山1分59秒94
関東選抜新人大会▽800米④入山1分57秒46
高校駅伝県予選⑩7春高
《剣道部》
関東大会県予選▽関口と和田個人B8
同団体3回戦
春高5
0開智▽春高1
1東農大三▽準々決勝
春高2

ソフトテニス部

関東大会県予選・3回戦
春高2
0浦和▽4回戦
春高2
0久喜工
関東大会2回戦
早稲田実業4
3春高
高校総体県予選個人B32吉水・奥條組
高校総体県予選
準々決勝
松山2
0春高
県新人大会2回戦
春高2
1小川▽3回戦
春高2
0立教新座▽準々決勝
川越東

水泳部

2
1春高
関東大会県予選▽200米平泳
3小平2分22秒98
200米平泳
8小平2種目関東大会
へ
県新人大会▽200米平泳
4小平▽200米平泳
4小平

バドミントン部

関東大会県予選W
岡田・井口B32
S
岡田・末松B32
県新人大会▽春高3
2西武台、鴻巣3
2春高B8
《サッカー部》
全国選手権県予選1回戦
川口北3
1春高
《弓道部》
高校総体個人予選
堀部三
次予選進出
県新人戦2回戦
《書道部》
国際高校生選抜書展▽文部科学大臣賞
小林▽優秀賞
関根
県高校書初め展▽県教育長賞
小林
県総文祭書道展▽第1席
小林
県高校硬筆展▽教育長賞
小林
《囲碁将棋同好会》
総文祭県選考会▽個人戦優勝
小山
全国総文祭・10位
小山
関東大会県予選▽団体戦決勝
春高2
1早大本庄▽個人戦優勝
小山、準優勝
岩崎
関東地区選手権▽団体戦
春高▽個人戦
4小山

放送部

全国コンテスト県予選▽ア
ナウンス部門・入賞
伊藤
《吹奏楽部》
県吹奏楽コンクール▽銀賞
《新聞部》
県高校新聞コンクール▽準
優秀賞

今井会長の叙勲 二つの祝賀会が

今井宏同窓会長(高12回)が、昨秋の叙勲で、長年地方政治と国政に寄与した功績を称えられて、旭日重光章を受章した。春高同窓会が主催する祝賀会が、2月4日春日部市のヤマヤで開かれ、約50人の出席者から今井会長が祝福

された。

在校生に熱く語る カープの木下さん

また、地元後援会などを含む全体の祝う会が、3月4日、都内の東京プリンスホテルで開催されて、約300の人たちが出席し、今井会長の長年の政治活動を称えあった。

昨年の青島健太さん(高29回)に続き、今年は広島カープ球団で活躍した木下富雄さん(高22回)に春高に来ても

いわき市で犠牲に 11年前のNYでも

井会長の司会で、青島さんと対談して「春高野球部をどう強くするか」などを熱く語っている。その時のくわしいことは、同窓会ホームページに録画されている。

85年と思われる。心からご冥福をお祈りしたい。それより11年ほどさかのぼる平成13年9月、アメリカで同時多発テロが起こったが、そこでも春高の若手OBが犠牲になっている。高39回の平井克征さん(当時32歳)。アメリカ中央三井インベストメントに勤務し、旅客機が突っ込んで倒壊した世界貿易センタービルの83階にいたとみられている。「息子はニューヨークの空に散ってしまった」と両親は語った。

バスケット部

関東大会県予選2回戦
埼玉77
62春高B16
総体県予選1回戦
大井86
62春高
《バレーボール部》
関東大会県予選1回戦
市立川口2
0春高
総体県予選1回戦
本庄東2
0春高
春高バレー県予選1回戦
三郷北2
0春高
県新人大会1回戦
大宮東2
0春高

野球部

夏の県大会2回戦
春高6
5川越初雁▽同3回戦
春

物理部

東関東高校ARDF競技
1位
大阿久▽2位
梅澤

新聞部

県高校新聞コンクール▽準
優秀賞

▼転居などで住所が変更になった時は、電話番号も含めて事務局までご連絡ください(048-760-1627)。また同
期生や知人が逝去された時もご連絡ください。通夜や告別式に間に合えば、弔電をお送りします。

大木さん陸上で関東総合三連覇

高18回 (昭和41) (年卒業)

春日部市の秋山文和さんは、高校では帰宅部だが、帰宅後は女性を交えてサークル活動に興じ、多方面の勉強をしたという。特に粕壁小学校の体育館を借りて、北朝鮮製作の映画「赤い花」の上映は、他校の生徒を含め50人以上の参加で大いに盛り上がった。か。共産圏の映画をどこの誰がやったのかと学校では騒動になったが、表面化することはない。社会に眼を向ける性向は、高校時代から培われたもの。法政大学二部社会学部を中退後、血液センターや共産党の機関紙「赤旗」の仕事を経て、35歳で春日部市議会議員に初当選。それ以来、連続8回当選を数える。市議会では「2番目の古株」となった。春日部・庄和の合併時の市長選に無所属で出馬し、落選した。市議定数32、実員30のうち日本共産党6人の団長として活躍。「今の政治は悪

すぎる。徹頭徹尾弱い者の味方として頑張りた」と語る。旧大宮市出身の浅井勉さんは、3年時にNHK放送コンテスト文芸部門で自作の創作童話朗読作品が部創立以来初の優秀賞を受賞し、全国大会にノミネートされた。2年時にはクラス代表で校内弁論大会に出場し、2位に入賞。明治大学を卒業後、桶川市で教員となり、30歳で埼玉県教職員組合の専従役員に就任。書記長などを経て最後の8年間は執行委員長。県の各種教育関係の審議委員を務めた。春高時代の恩師・佐々木敏雄先生が高校教職員組合委員長等であったことから、15年間に共に活動。憲法と並んで戦後教育行政の指針であった教育基本法改定反対運動は在職中の一大闘争となった。「時の政治動向に翻弄されない子ども・父母・教職員参加型の自主性が最大限尊重された学校が必要」と語る。上尾市在住。旧岩槻市の天粕一男さんは、

春高卒業後の夏休みに、同級の小島忠司さんと青森の十和田湖まで自転車で遠征したことが思い出に残るという。工学院大学建築学科に入学後はあまり勉強せず、体育会の自動車部に入り、ラリーで日本一周をしたことも。卒業後、昭和50年に建築設計事務所を開き、より良い景観と地域の活性化について常に考えているという。昭和63年に小学校のPTA会長や平成15年から地域の自治会長を務め、地域のコミュニティに悩みながら楽しんでる。また旧岩槻市の都市計画審議委員を務める。同市がさいたま市との合併前後の時期であった。いつも「質実剛健」を忘れずに行動している。最近健康のため太極拳を始めたが、健康と飲酒の両立を図りたいという。群馬県板倉町の江森隆裕さんは、同町立西中学校から最初に春高を目指した。本人も担任も掴みどころのない思いであったが、めでたく合格。

遠距離通学で、登校は毎朝一番乗りだった。早稲田大学政治経済学部に進んだが、第二人も春高の剣道部、早稲田へと続いてくれた。国学院大学で神道学を学んでから、父の後を継いで群馬県板倉の雷電神社宮司となった。英語が得意で、国際政治学も魅力的だったので、世界を飛び回りたいとの華やかな夢があったがそれはかなわず。だから、「あの時代の活力渦巻く春高と早稲田に行けたのは一生の宝である」と振り返る。「松下吉蔵先生や級友はみな人間味豊かだった」という。やり残したことが一つあるという。忙しさに紛れて妻子を持たずにきてしまったことだという。

「候補者を探しています」。旧岩槻市出身の小川明さんは、在学中は柔道部に所属し、大学でも同好会で柔道が続けた。その後、鋼鉄関連の会社や特許事務所に勤務し、ばね会社・小川スプリング(株)の二代目経営者となる。「新しいことに挑戦する、あきらめないで続ける」というのが信条で、現在形状記憶合金の応用に取

り組んでいる。平成18年に打ち上げられた通信衛星きく8号は、世界最大の衛星アンテナを装備していることで有名だが、このアンテナの開閉はねの軽量化が重要課題であったが、同社がその実現に見事成功。チタン合金製でできているので、ステンレスと比較して35%の軽量化を実現した。形状記憶合金の応用は、医療機器のガイドワイヤーやカテーテル部品等にもなされているが、ディーゼルエンジンの燃料噴射機構にも採用されたものもある。再来年には中国が気象観測用衛星・タイロスにも採用するので、数量が増えることを期待している。医療機器参入のきっかけは、「解体新書」の杉田玄白の子孫・杉田洋一先生からステント開発を依頼されたこと。平成12年ごろ杉田先生は留置位置の移動可能なステントを開発し、現在先端の曲がるカテーテルや身体に傷を残さない単孔式の鉗子などの開発に取り組んでいる。小川スプリング(株)は、現在、大病院等の医療の最先端での技術開発の一翼を担

っている。春日部市に在住。春日部市(旧庄和町)の大木正美さんは、陸上部の大木3兄弟の3番目。長男・故茂男(高11回)さんが陸上部12代の主将、次男・伸男(高14回)さんが15代目、正美さんが18代目と、3人も陸上競技で大活躍。2年生時の県民体育祭の百10ハードルで、14秒6の全国高校タイ記録を出す。この記録は47年ほどたった現在でも春高記録として残っている。また、3年生時、春高陸上部が北関東大会で総合3連覇の偉業を成し遂げたことが、印象深いと回顧する。順天堂大学のころも、インターカレッジ等で活躍。卒業後は、県内の中学校教員に。陸上の後進の指導にあたり、ジュニアオリンピックで3位入賞者を育成したり、県大会入賞者を育てたりした。「文武両道」が指導の持論で、勉強にも厳しく、調和を大切に指導し続ける。校長として、岩槻城南中をはじめ4校で13年務める。現在は埼玉生涯陸上の集いの会長を3年。健康維持のため、毎朝雨が降っても40分ほどの

散歩を欠かしたことがない。上尾市の大熊秀夫さんは、在学時バレー部に所属し、国稲田大学に進みバレー部に入部し、関東大学I部リーグでチームの主力として貢献した。春高時代の思い出は、運動会の4百メートルで3年連続優勝し、卒業時に体育科から立派なメダルと盾を受賞し、今でも大事に持っているという。昭和45年体育教師として赴任し、38年間の教員生活を送った。8校の県立高校を異動し、最後の7年間は3校の校長職に就いた。その間、障害者交流センターに勤務し、障害者と健常者との交流にも努めた。また高校保健体育研究会会長、県バレーボール協会理事等として、後進の指導にも。春高時代の個性ある教科の先生、部活の熱意ある指導に影響を受けたことが教師生活のバックボーンになったという。現在は県主催のソフトバレーボール教室の講師や地域の家庭婦人や中学生にバレーボールを教え、自分の体力維持にも努力している。

(29)

公認会計士として活躍の坂本さん

旧岩槻市の大河内哲二さんは、在学中は生物部に所属。中学のころから手がけたクモの研究班を立上げ、東京農業大学でも昆虫学研究室でただ一人クモの研究を続ける。卒業後は、理科の教員として旧岩槻市や久喜市の中学校に勤務したが、38年間の教職生活の半分以上は管理職として学

校経営や教育行政に携わった。校の事務長や県教育局の役割を務めた。豊富な経験と高い企画力が評価されて、52歳の若さで宮代町教育長に就任し、①通学区自由選択制の実施②小中学校連携の推進③町の全教員のカンセリング資格取得④教員等の手作り町内共通学力テストを実施し学力向上を図る⑤全小学校へAETの派遣⑥学校給食の地産地消の

アン。映画とアメリカ・ハワイの強烈な印象と感動が、その後の仕事や人生観に多大な影響を与えることになったという。現在は、地域密着の(株)岡安不動産と輸入住宅を中心とした(株)アーバンホーム、新しいスタイルを目指す(株)業の(株)セントグレースガーデン(羽生霊園)の3社を経営している。特に霊園の仕事は、

専門職として力を尽くす。興風図書館長在任中は、旧関宿町との合併後に旧町庁舎を改装し、地域の読書活動の拠点となる「せきやど図書館」の開館を果たすなど、利用者の方々の喜びを糧に、多種多様な市民の読書ニーズに応える図書館サービス実現に努めた。仕事の傍ら、同窓会活動にも取り組み、平成14年から7年間、野田支部の事務局長を務める。退職後、念願だった四国88ヶ所札所巡拝を果たし、

る。現在は、財務省入札監査委員や調停委員などの公職とともに、公益法人や学校法人の監査や資産家のコンサルタントなどを行っている。朝霞市に在住。旧大宮市出身の黒澤宗剛(喜平)さんは、高校のころから宗教に関心を寄せ、たどり着いたのが仏教で、上智大学在学中の三分の一は北鎌倉の円覚寺で座禅漬けであった。卒業後、本格的に座禅に取り組みため、円覚寺専門道場で

る人材育成に努めていくとのこと。神奈川県藤沢市に在住。蓮田市の小山晃さんは、父親、叔父、兄弟をはじめ親戚のほとんどが粕中、春高の卒業生という春高一家で、質実剛健、誠実質素を座右の銘としている。早稲田大学第一政治経済学部を卒業後、東京芝浦電気(現東芝)に入社。経理マンとして、イギリス、ドイツ、フランス、スイス、イタリア、中国などの現地法人立上げに従事し、会社生活の半

▼バドミントン部のOB会が、3月18日にフラールガーデン春日部で結成総会を開きました。77人ものOBたちが久しぶりに集い、旧交を温めました。今後の連絡は、事務局長・関根務先生(春高教頭、高27回、TEL048-752-3141)まで。



春日部高 人物誌

橋本さんは世界的な鍛金造形作家

岩槻区の齋藤英夫さんは、在学時代は柔道部に所属したが、相撲部が部員不足で県大会に出場が難しい時に、柔道部の井手俊さんとふたりで黒帯をまわしに換えてしまうの県大会や関東大会に出場し、春高スポーツの伝統を守ったことがあった。特に井手さんは相手のぶちかましを胸で受け止め、柔道技で投げ飛ばし大活躍して、部員たちから大喝采を浴びた。井手さんは、現在愛媛県松山市に在住。明治大学を卒業後、勝村建設(株)に勤務し、春高創立百周年記念節日の新校舎建設にあたり、営業担当として受注に成功。当時はOBの一人として施工できる喜び以上に、母校の校舎を立派に完成させるという責任感が重く、無事に竣工式典を迎えることができた時の感激は一生の思い出と語る。その後営業部長、北関東支店

平成11年東部教育事務所再編後の初代主席管理主事として広域人事管理にあたり、同副所長も務めた。その後、岩槻市教育委員会学校教育部長になり、さいたま市との合併に伴う市教育委員会の幕引きに立ち会う。最後は、同17年の合併と同時に母校岩槻中学校のさいたま市立初代校長に就任して、伝統を継承しつつ新体制での学校経営の基盤固めにも努めた。現在も虫や理科との関わりを楽しんでいる。

宮代町の岡野義男さんは、大学卒業後、県職員となり学校や保健所に勤務。不動岡高推進などの斬新な取り組みに成果をあげた。その後県立文書館長等を務め、現在は人権擁護委員として法務局電話相談員や町民相談員、町関係審議会委員等の職を務めている。久喜市(旧菖蒲町)の岡安正一さんは、中央大学商学部を卒業後、明治大学大学院商学研究科へ。修士論文のテーマは「国際会計論の基礎的研究」。その在学中にシアトルにあるU・Wで研修。大学在学中の楽しみは、休講の時間に大学近くの映画館・南風座で、洋画3本立てを観ること。それ以来、現在まで映画の大フ

長を歴任し、現在越谷市の高元建設の春日部支店長として、母校の発展を応援している。蓮田市の島村道雄さんは、在学中は弓道部に所属。中央大学法学部を卒業後、埼玉県庁に入り、企画部門、産業振興部門を担当し、活力ある埼玉づくりに貢献した。県立松伏高校の事務長も務め、音楽科創設に関わるなど高校改革に尽力。旧栗橋町の助役も経験し、地域コミュニティを重視した街づくりに取り組んだ。上田県政誕生後の目玉事業で全国的にも大変珍しい創業ベンチャー支援センターを立上げ、初代所長に就任し、持ち前の熱い使命感を持ってチャレンジ精神旺盛で元氣な企業育成に力を尽くした。県庁退職後、商工会連合会専務理事に就任し、県内商工業の振興に貢献。その後、再度県庁に戻り、非常勤の雇用拡大

参与として若者等の雇用確保に努めた。現在は、労働審判員や保護司を務める傍ら、永年取り組んできた青少年問題や国際交流など地域ボランティアとして活躍中。旧岩槻市出身の杉山幹夫さんは、春高卒業後旧大蔵省に入り、公認会計士制度のことを知り、働きながら勉強して二次試験に合格。監査法人で上場企業の監査を経験した後、医療関係に詳しい公認会計士事務所に入所し従事したが、昭和59年、先代所長の急逝により39歳で所長になる。病院や老健施設を運営する医療法人をクライアントに持ち、会計、税務、経営指導など幅広い業務を行っている。特に医療法人を公益法人化し、相続税のかからない特定医療法人や社会医療法人への移行をすすめている。その経験を生かした著書『医療法人の会計と

次の世代へと引き継ぐライフワークとして大切に育てていきたいという。現在、久喜市の固定資産評価委員を務める。また、春高同窓会の本部役員。菖蒲春高会の副会長。野田市の木村恒夫さんは、國學院大学を卒業後、在学中に取得した司書資格を活かして、地元私立・興風会図書館に勤務。昭和54年、市民の公立図書館要望運動を機に、興風会図書館が野田市に移管されたのに伴い、市立図書館司書となる。その後、市立図書館整備計画の策定や業務の電算化、地区館の整備などに、

現在は時折の低山歩きを楽しむ。春高同窓会の本部役員。旧大宮市出身の坂本隆信さんは、春高では野球に明け暮れた3年間だったが、大学に入って公認会計士を目指して猛勉強をし、卒業した後に同試験に見事合格。監査法人への勤務を経て、独立開業して今日に至っている。さいたま市中央区下落合に公認会計士事務所を構える。その間、平成16年から20年にかけて、埼玉県の代表監査委員として母校春高に監査に赴いたときは感無量だったと振り返る。公認会計士埼玉県会会長を務め

税務』(同文館出版)は、7版を重ねるまでになった。平成18年に上場企業の社外監査役に就任。東日本大震災後、事務所を東京神田から浦和に移し、職住接近を実現した。さいたま市緑区に在住。旧大宮市の鈴木暉夫さんは、柔道部松下吉蔵先生の指導の下、1年生からレギュラーとして全国大会や国体に出場し、ポイントゲッターとして活躍。特に全国大会で県代表として初のベスト16に貢献できたことは、最良の思い出と語る。立教大学に進み、全国の強豪と互角に戦い、4年生時には主将の重責を果たし、卒業後も後進の指導を続け、6段に昇段。その後、富士ゼロックス(株)に入社し、持ち前の人柄で調達畑一筋に勤務。54歳で新潟に取締役として赴任し、良き文化、風土の柏崎で二度の中越地震に遭遇したが、素晴らしい仲間とともに頑張り、充実した社会人生活を過ごす。社会人として大切なことを身

につけ、リーダーシップが発揮できたのも、柔道を通して学んだ「礼儀作法や他者を思いやる心、忍耐強さ」などが原点であり、「今でも毎年恩師を囲み青春時代にタイムスリップし、懐かしい昔話に花を咲かせることが大きな楽しみ」という。さいたま市北区在住。蓮田市の田口孝夫さんは、東京教育大学(現筑波大)に在学中、大学の筑波移転問題をめぐる紛争に巻き込まれて留年。修士課程を含め8年間を大学で過ごした後、大妻女子大学の奉職。以後38年にわたり研究、教育に従事する根拠からの大学人。現在は英文学科教授、学科長。特にルネサンス期の劇作家W・シェイクスピアについて造詣が深い。また、英語教育にも関心を持ち、数々の辞書の執筆や高校、大学の英語教科書の編集にあたる。昭和59年には学会活動を評価され大学英語教育学会賞を受賞。また同54年、英国

修行生活を送ること多年。昭和60年に藤沢市の東勝寺住職に就任し、座禅会や写経会、御詠歌の会、茶道の会などを開いている。平成18年ベルーの日系私立学校ラ・ウニオン校のサッカー少年が来日。引率者の宿泊を寺で引き受けたのを機に、湘南の日系の人たちとの交流が始まる。彼らの要請で開いた日本語教室や子ども学習教室等をNPO法人「地球市民友の会」にまとめ、彼ら百50人との国際色豊かな忘年会等の日本人との交流や外国人支援活動を行っている。今後日本と世界の架け橋とな

分を海外駐在員として過ごす。帰国後は地元国際文化交流協会の会員として、海外で世話になった人々や各国からの研修生をホームステイの形で世話し、今まで約30カ国からの友人や研修生を受け入れている。また中国に駐在していた経験を活かし、埼玉県友好都市である中国山西省から医学研修生を毎年ホームステイの形で世話しており、今年も彼らからの招待で山西省に旅行する計画を立てて、楽しみにしている。現在中国進出企業のアドバイザーとして、日中間を行き来している。

ケンブリッジ大学に留学したのを機に英国文化に関心を持ち、「記号としてのイギリス」(南雲堂)をはじめ英国文化関係の著書、訳書を次々に出版。近著『シェイクスピア百科図鑑』(悠書館)など、図書館向きの豪華本の翻訳を多く手がけるようになる。趣味は映画鑑賞。時代小説をよく読む。幸手市の田村千秋(一色)さんは、足利泰氏の子の一世公深を祖とする家柄。幸手中学校時代からソフトテニスの選手として県大会でベスト4に入るほどの活躍。春高在学中も、県大会等で活躍。持久走が得意で、陸上部から懇願されて春高代表選手として埼玉駅伝の吹上・鴻巣間の第3区を走ったが、オーバースタガタたり、後半かなり順位を下げたのが心残りだと言う。明治学院大を卒業後、埼玉県庁に入ってから、ソフトテニスやジョギングは欠かさず、体力作りに励んでいたが、50

歳代で心臓に異常が見つかり、大動脈弁を人工弁に取り換える手術をすることになってしまった。退職後幸手ソフトテニス連盟の指導者として仲間とテニスを楽しむとともに、幸手走友会では中村行生(同窓会副会長)会長の後を受け、会員約100人の大所帯を背負って日々走り続ける。久喜市の高山保さんは、在学中は文学部に所属して散文や韻文を書いていたが、自分で文才のないのに気が付き、大学は、早稲田の商学部に入る。何かひとつ得意分野を作ればいいと思いい、海上保険論だけを勉強したという。そのうちに、お寺や仏像に興味を持ち、バイトで稼いだ金で全国のお寺を見て歩き、ついでに庭園にも興味を持つようになる。大学卒業後、損害保険会社に就職したが1年足らずで退社し、趣味と実益を一致させようと考え、造園業を目指して都内の造園材料屋に住

▼「家の者に振り込みサギの電話が入った。同窓会名簿を見て電話番号を知ったようだ」と同窓生から連絡がありました。被害はなかったようですが、事務局では同窓生だけに名簿を取得してもらっています。このような名簿の悪用には、お互い用心をしたいもの。



埼玉県立春日部高等学校同窓会
KASUKABE HIGH SCHOOL ALUMNI ASSOCIATION

このほどホームページのリニューアルと合わせて、春高同窓会のロゴマークが上のように決まりました。それと同時にシンボルカラーと書体が決まりました。ホームページ上に詳細な説明ページがあるので、ご覧ください。各春高会(支部)や同期会、部活OB会などで、ぜひお使いください(無料)。

ロゴマーク新調

このほどホームページのリニューアルと合わせて、春高同窓会のロゴマークが上のように決まりました。それと同時にシンボルカラーと書体が決まりました。ホームページ上に詳細な説明ページがあるので、ご覧ください。各春高会(支部)や同期会、部活OB会などで、ぜひお使いください(無料)。

み込みで入る。何度もこんなことは止めようと思いつながら、やがて地元で(株)高山造園を立ち上げる。平成11年母校の創立百周年記念事業として体育館前に記念庭園を造園する。現在同社の代表者と県造園業協会の理事などを務める。

幸手市の中江卓二さんは、東京教育大学(現筑波大)に進学したが、教職を目指さないうで、東京都の職員試験を受けて足立区役所に勤務。一時都庁勤務も経験したが、足立区役所に戻り、定年退職まで地方行政に携わった。現在は再雇用で同区の第三セクターに勤務している。区役所では、海外交流の仕事に従事したこともあり、オーストラリア・ベルモント市の人々とは今も交流が続いている。同市には5回も訪問。山登りが好きで、区役所山岳会の会長も務めた。また、学生のころからオペラ

に熱中し、レコードやビデオ、DVDのコレクションは半端な数ではない。足立区でオペラ愛好家のサークルも作っている。さらに合唱にも手を染め、幸手市の第九コンサートには連続8回出演、母校のセンターホールでの舞台に何回も立っている。今は地元の区長も務めており、仕事の傍ら地域のために汗を流す。

蓮田市出身の中野比登志さんは、中央大学法学部を卒業。昭和46年に司法試験に合格。3年後、第一東京弁護士会に登録。当時政府の肝いりで始まった日本中国青年弁護士協会の会員として、日中友好のために活躍。さらに従軍慰安婦の件や731部隊の件について、被害者の中国人の代理人として訴訟を担当した。高校時代は、蓮田市黒浜の自宅から自転車毎日30分かけて通学。中央大に入学し初めて東京に出たが、自宅や春高の周りと都会とのあまりの違いに驚いたことが記憶にあるという。さいたま市浦和区在住。

幸手市の野口貞三郎さんは、生涯スポーツの振興というテーマのもと、頑張っている。中学校時代から陸上の棒高跳びで活躍。春高陸上部では、県新人戦で入賞はしたが、2年生時からマネージャーに転向。合宿の折り、道端の草を味噌汁の具にしたと今でも当時の仲間間で話題にのぼる。実際は、青物がなかったら八木崎の魚屋さんに話したら、「道端に小松菜が生えているから取って行け」と言われたまでのこと。東洋大学法学部

を卒業した後、銀行勤めをしながら、家業の工務店を手伝うことになり、現在市内で高性能の健康住宅建設会社の専務、建築設計、行政書士事務所を甥と営む。スポーツ好きが高じて市内体育関係団体の役職が多くて、市職員に間違えられたほどである。現在、健康で文化的なコミュニケーション・クラブを目指し総合地域スポーツクラブ「クラブ幸手」の理事長。また、21回を超す幸手さくらマラソン大会の実行委員長として奮闘中。

上尾市の野本(村田)重雄さんは、学習ソフト作成や教科書執筆の実績で県立教育センター情報処理教育部長となる。情報教育研修や県情報教育推進計画策定、県教育情報ネットワーク構築など情報教育の先駆けとなる。所沢商高や深谷商高の校長を務め、県商業教育研究会長、全国商業高校長協会常務理事、全国から10数万人を集めた全国産業教育フェア運営部長等の功により、産業教育功労者全国表彰を受ける。現在、県専修学校協会と県私立学校総連合会の事務局長。一方、2百人を擁する県下最大の陸上クラブ・上尾市陸上競技協合理事長を20歳から務め、市民ランニング教室や小学生陸上クラブ、春高職員の川内優輝選手や箱根駅伝選手らが多数出場する上尾シティマラソン等を創設。12歳から52年間続けているマラソンは、大会の年代別優勝をするほどの実力。

上尾市の橋本真之さんは、春高美術部から東京芸術大学

に現役合格し、現在、鍛金造形作家として世界的に活躍している。春高の創立百周年記念事業として平成13年中庭に「千年の感応」という銅の立体作品を設置。東京国立近代美術館に代表作ともいえる10年がかりの作品「果樹園」現実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実」が収蔵され、皇居前の工芸館正面に常時展示されている。県内では、県立近代美術館のレストラン前の植え込みの中に作品が展示されている。これは次第に増殖展開して成長していく作品で、現在もその途上にあるという。批評家の間では、現代日本の工芸論と西欧由来のクラフト論との議論の渦中にある、日本の金工作家の代表的存在と言われている。現在も作品が国際交流基金の企画運営で「現代日本工芸展」の展示作品として、世界中を巡回している。出不精の作家自身より、作品のほうが世界中を旅しているようだ。

蓮田市出身の原幸男さんは、在学の際の初心者として弓道部に入学し、3年生で主将として仲間とともにベスト8を目標に県内の大会に参戦した。在学中、「薬はなぜ効くのか?」との疑問を持ち、図書館で理科関係の本を読んだが答えが見つからなかった。そこで大学の薬学を目指し、東京薬科大学に進学し薬剤師の資格を得た。その後北里大学大学院で薬理学の研究をして薬学博士の学位を取得。東京田辺製薬、千葉大学医学部に勤務した後、現在は、青森県

十和田市の北里大学獣医学部の教授として獣医師の育成に当たるとともに、循環器の薬理学を研究している。また、県内小学校から高校までの児童生徒を対象にした薬物乱用防止教室や市民を対象とした薬の正しい使い方教室に力を注ぐ。この間何度も自分に問いかけてきたことは、青春時代の「薬はなぜ効くのか?」であり、今はその答えが少しわかってきたという。

幸手市の東秀昭さんは、頼られるホームドクターとして地域に密着した医療を実施している。日大医学部を卒業し、春日部市立病院など県内の医療機関に勤務した後、日大板橋病院で内科医として勤め、高血圧の研究で博士号を取得した。平成3年父親から東内科小児科医院を承継。春高時代は、陸上競技部に所属。県大会は言うに及ばず、北関東大会で2年時に円盤投げで、3年時にはハンマー投げでそれぞれ優勝し、インターハイでも活躍。このような経歴から、市内のスポーツ団体からボランティアでの救護医師としての要請が多い。趣味は、カメラ散歩。休日にはカメラを肩に近郷を歩く。県展入選の腕前であり、自慢の作品を眺めながら患者との話も弾む。市国保運営審議委員や介護認定審議委員、幸手商の校医、幸手走友会のチームドクター。

岩槻区の三次宣夫さんは、在学の際の卓球部の門をたたくも先輩たちのあまりの上手さにビックリ。見切りをつけての三日坊主で、いわゆる帰

宅部で通す。昭和47年岩槻市役所に奉職。主に税務、秘書人事畑を歴任し、平成15年住民投票でさいたま市に編入合併が決定し、合併協議会事務局に転出。「その際、各界各層で活躍している多くの同窓生諸先輩から温かいご指導ご助言をいただき、改めて春高の卒業生でよかったと実感した」と語る。同17年4月から初代のさいたま市岩槻区長として、合併後の岩槻区発展の基礎づくりに奔走。編入合併ゆえの悩み、十人十色の苦情、要望等を脳裏に焼き付け、同23年3月さいたま観光コンベンションビューローの常務理事を退職するまで、岩槻区の発展のために心血を注いだ。現在は、地元の自治会長を務めながら家業の農作業に精を出す。春高同窓会本部役員。

上尾市の山崎正さんは、中央大学法学部を卒業し、司法試験に合格。昭和49年に東京弁護士会に登録し、3年後自宅のある上尾で法律事務所を開業。田舎の弁護士として、民事、刑事、家事事件を担当し、また60歳になるまで約10年間、県庁の県民相談室で法律相談を担当。さらに上尾市役所の市民相談室では30年にわたって法律相談を担当している。春高に入ったころは、男だけのなんと殺風景な学校だろうと思ったと回顧する。

上尾から通学したが、1、2年生のころは高崎線が電化されておらず、本数も少なく大変混んでおり、列車に乗るのが大変だったと。列車に乗れず遅刻することがあり、校門

に立っている先生に怒られるかなと思っていたところ、上尾からの定期券を見せたら、「通学は大変だろう。無理して列車に乗らないように」と言われたことを覚えている。「春高時代の仲間と今でもよく会っています。上尾と春高は、心理的にはやや距離があるが、上尾で春高生を見ると懐かしくて、つい話しかけてしまおう」とも言う。

さいたま市の吉田一也さんは、入学前から野球部の練習に参加。2年生部員が5人と少なかったこともあり1年生からレギュラーに。3年生時は主将として活躍した。当時の野球部の実力は今イチで、東部地区では常勝だが、県大会では2、3回戦止まり。応援団には応援のしがいのないチームだった。一番の思い出といえば、2年生の春季大会、11打数6安打で首位打者(10打数以上)になったこと。1番打者で打席が多く、1回戦の狭山ヶ丘高が弱かったこともありラッキーだったという。進学後も野球を続ける気だったが、高3年生時に見た元巨人軍の堀内恒夫投手(甲府商高)のすごさに圧倒され、「同級生にこんなスゴイ奴がいるんだ」ときっぱりあきらめた。明治大学では「シゴキの農大事件」で有名になったワンダ1フォージェル部に所属し、4年間の大半を山で過ごした。現在は石綿(アスベスト)と耐火偽装で新聞を賑わしたニチアス(株)の子会社(株)東京マテリアルス(浦和)で社長業をしている。(文責：中村行生)

▼定時制の町田秀彦先生が、このほど電子ブックの創作集『キャンパス』(創栄出版、ペンネーム波瀾秀彦、販売価600円)を出版しました。購入は、Apple-app store一か、創栄出版のso-books一で。同先生は、『中年暴走族気分』(近代文藝社)の作者。

7月と10月に大会

同窓会事務局長が発足

春高は、以前から囲碁が強い学校。昭和44年と45年に本校の囲碁部が全国大会で団体2連覇を果たしたことがある。今年も在校生に全国的な実力者が数人いる。そんな中、たくさんの卒業生から要望が寄せられたので、同窓会ではこのほど春高同窓会囲碁クラブを発足させた。実行委員会(代表・高6回高橋徹)を開いて、今年も次のように大会を2回開くことに決まった。この会は、囲碁を愛するOBが一同に会し、年代を超えた対局を楽しむというもの。高段者から初心者まで、同期の方やご近所の同窓生と一緒に、気軽に参加してほしいと事務局は望んでいる。

午後3時
《会場》春高大会議室(1階)
《会費》千円(弁当代を含む、当日で受付いただきます)
《申込み》同窓会事務局長・

戸井田哲まで
 ☎048-760-1627
 メールアドレスは、本紙1面の題字下をご覧ください。

都筑、牛山さんがV

参加117人

参加117人

▼第66回同窓ゴルフ会コンペ
 (23年10月20日千葉CC川間)
 △優勝 都筑格(6回)▽2位 岩崎昌蔵(11回)▽3位 戸井田哲(17回)76 B G▽4位 大山智夫(9回)▽5位 森仁三(10回)▽6位 植野紀男(14回)▽7位 待山勇寿(12回)▽8位 鈴木信行(10回)▽9位 美田昭彦(16回)▽10位 遠藤正幸(17回)◆シニアの部(12回以上)▽優勝 待山勇寿(12回)▽2位 鈴木信行(10回)▽3位 会田貢平(11回)

▼第67回同窓ゴルフ会コンペ
 (24年4月5日千葉CC川間)
 △優勝 牛山信康(21回)▽2位 大木一夫(21回)▽3位 遠藤正幸(17回)▽4位 宮田学(21回)▽5位 植野紀男(14回)▽6位 関根務(27回)▽7位 三原謹二郎(6回)▽8位 森仁三(10回)▽9位 田村文隆(19回)▽10位 細井喜久雄(20)▽B G 81 岩崎昌蔵(11回)◆シニアの部(13回以上)▽優勝 三原謹二郎(6回)▽2位 森

仁三(10回)▽3位 鴨田裕次(5回) 参加1122人、今回は10月25日(木)の予定。
 6月16日に発足
 川口・戸田・蕨春高会
 このほど発足した。県南3市に約500人の同窓生が在住しているのだから、ぜひ組織を作ってほしいと地域の同窓生から強い要望が寄せられて、昨年11月の発足準備会を皮切りに地元で会合を重ねて、左記のように発足することになった。「同期の人を誘って、ぜひ多くの人が出席してほしい」と準備委員は望んでいる。
《名称》川口・戸田・蕨春高会
《発足総会》平成24年6月16日(土)午後2時半、開宴同3時
《会場》江南春(中華料理店)川口市栄町(川口駅南口3分)
《会費》5千円(当日会場いただきます)
《申込み》過日郵送しました案内状か、または下のところ

まで。
《連絡先》高33回・土屋信彦(土屋社会保険労務士事務所)☎048-290-1679

栃木春高会も
 10月27日(土)に総会
 栃木県にも約500人の同窓生が在住するので、同じように春高会の組織を作りたいという要望が高まってきた。そこで有志数人が集まり、話し合った結果、次のように発足総会を開くことになった。同じ栃木に住む同窓生が、親しく会合を持ちたいと思います。ぜひご出席いただきたい」と発起人は望んでいる。
《日時》平成24年10月27日(土) 受付午後5時、開宴5時半
《会場》竜鳳ダイニングつばみ 宇都宮市東端田☎028-616-1699
《会費》5千円(当日会場いただきます)
《申込み》後日発送のハガキで。または左の所まで。
《問合せ先》高22回木村孔三

今を一生懸命に
 在籍生に訴える
 「進路トーク」で
 在籍生対象の「進路トーク」の開催に、同窓会事務局が提案し協力して11年になる。例年2月上旬に若手OB数人に春高に来てもらい、1年生対象に在籍時代の勉強方法や部活動との両立、大学学部を選んだ理由、さらに社会での仕事の内容など熱く語ってもらうという企画。本校の進路指導部が主催するが、同窓会事務局がOBの選抜から当日の司会役まで担当する。
 今年は2月1日、音楽ホールで開かれた。OBは次の4人(敬称略)。▽高30回浅川喜裕、さいたま赤十字病院医師、さいたま市▽高32回黒澤進、武蔵野銀行、柔道部、吉川市▽高32回松本和彦、全日空国際線機長、世田谷区▽高40回森丘保典、日体協スポー

ツ科学研究所、陸上部、さいたま市▽司会・戸井田哲同窓会事務局長
 進路トークを聞いた1年生から、「夢をかなえるには、自分自身の力で進まなければならないのだ」ということを、改めて思った。「いま何にでも一生懸命に」という言葉がとて響いた」などの感想が寄せられた。

当面の主な日程

春高祭は6月2・3日

▽5月19日(土) 久喜春高会総会(三高サロン)
 △5月19日(土) 高26回同期会(フラールガーデン)
 △5月26日(土) 本部役員会
 △6月2・3日 第56回春高祭 テーマ「最高潮!吹き荒れる春高嵐」
 △6月2日(土) 大宮支部総会(清水園)
 △6月3日(日) 上尾伊奈支部総会(バンケット上尾)
 △6月9日(土) 幸手春高会総会(渡辺家)

の前で肩を組む。それをみんなが拍手ではやしたてる。出身地から離れて住み、この地の春高会に集まる。ともしれば、やや引いた姿勢にな

うなぎ登りに増えている。案内状の返信率も、4年前の37%から43%と増加。
 4年前から、役員会で会のあり方の見直しを熱心に議論してきた。結論として「明るく、楽しく、参加してよかつたという会合」にしていくことに。定年退職者だけではなく、現役の人が参加できやすい会をを目指す。具体的には①同期の会員を誘いあう②初参加の人には積極的に声をかけて孤立感をなくす③懇親会費

は横浜市以外の人が3分の1。会の名称を神奈川春高会などとしなくては...と青木三良会長(高7回)は笑う。このような役員熱心さが、暖かい会の雰囲気を生み出しているのだろう。この会のもう一つの特徴は、若手にも積極的に役員をやってもらっていること。総会の司会を高32回の植竹富一さんが務め、校歌斉唱の指揮は高37回の大塚聡さん。最後に、この会の秘密が少し判ったような気がした(中)。

春高会めぐり

② 横浜春高会



若手の役員が音頭をとって、校歌を高らかに歌う

11月の日曜、中華街で総会と懇親会。会場は熱気に包まれていた。8人掛けの円卓とやや狭い会場だけが熱気の理由ではなさそう。司会者が

参加数があなぎ登り

会のあり方を見直して

軽妙なトークで、雰囲気盛り上げる。学年別の代表がマイクを握る。出身別の、例えば蓮田出身の人たちがカメラ

りがちなもの。それなのに、この熱気はなぜか。4年前の総会の参加は18人。翌年は23人、昨年35人、今年は40人と

はできるだけ安くする④会員(案内状の対象者)を増やすことなど。総会のほかに、年2回ほど散策会やハイキング、名所旧跡めぐり、それにカラオケの会なども。そのイベントに出た6人が、今回総会に初参加。その中のひとりには「この会にはとても暖かいものがある。これからは毎回参加させてもらおう」という。「イベントは、小さく産んで大きく育てるもの」と事務局長の塚本正(高15回)さん。また、「今回

は横浜市以外の人が3分の1。会の名称を神奈川春高会などとしなくては...と青木三良会長(高7回)は笑う。このような役員熱心さが、暖かい会の雰囲気を生み出しているのだろう。この会のもう一つの特徴は、若手にも積極的に役員をやってもらっていること。総会の司会を高32回の植竹富一さんが務め、校歌斉唱の指揮は高37回の大塚聡さん。最後に、この会の秘密が少し判ったような気がした(中)。

▼第9回の石井徹(元高校教師)さんが、このほど無明舎出版から『全訳 遠野物語』を出版した。一世紀ほど前に発刊され、古典の仲間入りをしている柳田国男の『遠野物語』を、忠実に現代語に訳し、注釈を加えた力作。監修は東京学芸大学石井正己教授。定価1,680円

賛助金納入の方々(23年度)

23年4月1日〜24年3月31日
(再は再・再再納金、敬称略)

原利夫(再)
《高1》石川善一(再)、齋藤信義(再)、永瀬博(再)
《岩1》三浦玄之丞(再)
《高2》落合長治(再)、金子義彦(再)、原田和夫(再)
《高3》安孫子保(再)、阿部君雄(再)、荒木貞行(再)、井橋清一(再)、桑原欣四郎、田中啓一(再)、高木幹男(再)、桃木光雄(再)、松本武(再)
《定3》横溝孝二(再)
《高4》飯塚行雄(再)、隈部哲雄(再)、小島滉(再)、野口啓樹(再)、野口多嘉夫(再)、谷田貝満義(再)、山口正利(再)
《高5》安孫子治(再)、井上安法(再)、石川忠代(再)、石塚喜一郎、岩井清(再)、江森米蔵(再)、大熊武夫(再)、岡野圭治、北川忠(再)、時田勉(再)、針ヶ谷忠(再)、日向武雄(再)、藤井利雄(再)、吉田俊雄(再)
《高6》安助秀一(再)、秋谷行男(再)、甘粕啓介(再)、遠藤裕久(再)、小嶋晴三郎(再)、高橋徹(再)、根本暁(再)、藤井克文(再)、藤倉清(再)、三原謹二郎(再)、森戸乙三郎(再)、山口正隆(再)、吉川博(再)
《定6》山崎武夫(再)
《高7》新井良春(再)、井上壯六(再)、飯島生穂(再)、岩井勝治(再)、大高克彰(再)、神田与作(再)、武井博(再)、永瀬護、野口幸三郎(再)、林義人(再)、舟越一人、和田信郎(再)
《定7》相沢イツ、横山文夫(再)
《高8》青木晋(再)、新井哲夫、大上史郎(再)、金子勝治(再)、小林暢生(再)、木暮伸夫、後藤正司、齋藤芳男(再)、菅谷明(再)、関根寛治、中島邦彦(再)、横川好富(再)
《高9》嶋村喜宥(再)、田口惠三郎(再)、深井央明(再)
《高10》飯塚熙(再)、遠藤嗣郎(再)、大熊檀一(再)、岡野進一(再)、後藤聿晟、鈴木捷三(再)、塩野正直(再)、田口進(再)、田中弘(再)、戸邊賢(再)、堀切和喜(再)、堀沢秀夫(再)、森田武夫(再)

《定10》今村庸
《高11》小川栄司、酒井公雄、武蔵信男(再)、山崎栄司(再)
《定11》川上秀夫(再)
《高12》今井宏(再)、小川正行(再)、勝木康夫(再)、高野利夫(再)、中村幸雄(再)、野原宏(再)、細沼晃(再)、真々田邦博(再)、矢島紀一
《岩12》澤井豊子、多田弘(再)、野際孝寿(再)
《高13》明石吉三(再)、秋山幸一(再)、岩上輝夫(再)、小熊章夫(再)、小森谷英昭(再)、佐藤哲郎、須田実(再)、戸張莊次(再)、真々田富男(再)、茂木浩(再)
《高14》飯田晴康、内田孝司(再)、小川文雄(再)、斎藤正司(再)、坂巻國男(再)、島崎康彦、島村敏男(再)、白石光征(再)、瀬尾吉一、田中康裕、高浜匡四郎、長沢聖一(再)、野口昌夫、釈尾俊光、羽島均(再)、蓮通世(再)、平川清、松本進(再)、森谷明夫、柳沼兼彦、山本隆
《定14》岩浪節子、折原安義
《高15》秋元伸晃(再)、石川利忠、石塚碩孝、太田暉人(再)、岡田征史(再)、小沼英延(再)、清水猛(再)、関根秀雄、塚本正(再)、築山芳明(再)、平野剛志(再)、森田英雄(再)、吉澤浩司(再)
《高16》秋庭毅(再)、小峰俊厚(再)、齋藤繁人(再)、千原和夫、中川晃(再)、鷲津憲道
《高17》赤川昌行、新井利男、井原誠一郎(再)、遠藤隆雄(再)、岡田正之、倉持敏雄、小柏猛(再)、後藤祐亮(再)、小久保忠男(再)、渋谷茂夫(再)、富山昌史(再)、三ツ木晴雄
《高18》大野隆司(再)、根本健美、村田修(再)、東秀昭(再)、本多明朗
《高19》荒井孝、五十嵐賢一、岡野昇(再)、栗原正巳(再)、島田正一(再)、高野敏夫(再)、早瀬幸俊(再)、箕田守、山崎光美
《高20》榎本正(再)、押田豊(再)、岸昭生(再)、鈴木清(再)、山崎和義(再)、山本信夫(再)
《高21》牛山信康(再)、長谷部健一(再)、山崎達雄(再)
《高22》大野修作、尾崎行隆(再)、互静夫、吉田静那(再)
《高23》新井和彦(再)、遠藤繁、加納知明(再)、中山登司男(再)、野口俊男(再)、山崎哲哉、吉井文隆(再)

《高24》岡田昭文(再)、河野充夫(再)、戸張正雄(再)、龍島和男、原田隆司、比田井裕(再)
《高25》乙部宣広(再)、栗原浩之(再)、栗林徹(再)
《高26》高橋孝志(再)、平野方紹(再)、三ツ林裕巳
《高27》岡田弘行、小林一彦(再)、長山博、林正大(再)
《高28》池田常臣(再)、小沼昌雄、関洋(再)、野口浩一(再)
《高29》遠藤雅弘、金久保真澄(再)
《高30》石井禎(再)、小島幸治(再)、吉村重雄、渡邊尚(再)
《高31》石寄公朗、田中明彦、中島淳二(再)、長坂武(再)
《高32》石川広巳(再)、上野雄一(再)、植竹富一(再)、奥秀明(再)、田中和彦(再)、高柳昌幸、戸井精一郎、成島一博、藤田勲生(再)、真野毅(再)、吉田寿一
《高33》落合靖、藤田誠、松宮和人
《高34》伊藤豊(再)、小花保男、岡田吉郎(再)、鈴木恭介、関口厚志(再)、田口雄一、田村尚之
《高35》大日方聖信(再)、土田敬之
《高36》木村光一(再)、山田将也(再)
《高37》倉持和弘、篠原信、星哲哉(再)、穂波俊宏(再)、松尾賢治(再)
《高38》高橋彰
《高39》加藤弘詔(再)
《高40》太田雅規(再)、田村克巳(再)
《高41》谷塚光典(再)
《高42》荒井賢二、小川誠、冲宣宏、金子哲也、松田建二郎、矢鳥浩紀、吉田和宏、葎田栄治、鷲谷利史、渡利直樹
《高46》藤郷誠
《高49》高野省吾
合計 3百24人 3百60万3千円

引き続き賛助金を

お陰様で23年度も多くの方から賛助金を納入していただき、同窓会活動を円滑に運営することができました。今年度も、40歳以上の全員の方に振込用紙を送らせていただきますので、引き続きご協力をお願い申し上げます(事務局)。

資料提供者(23年度)

握るプラットフォーム
《高4回》隈部哲雄「創立50周年記念同窓会名簿」「歴史教科書」2点、「人文地理教科書」2点
《高10回》中島章二「書道全集(平凡社) 26巻」「書道大字典(角川書店) 2巻」
《高10回》本多三千男「日本文学全集(河出書房) 全55巻」「世界文学全集」、他

【平成23年度同窓会会計決算報告(案)】

期間：平成23年4月1日〜同24年3月31日
歳入総額 14,026,974円 (前年比 2,343,640円)
歳出総額 12,259,912円 (同 2,589,234円)
差引残高 1,767,062円 (同 △245,594円)
繰越金 1,208,152円 (グッズ在庫558,910円を除く)
繰入金 7,000,000円 (財政調整基金)
累計積立金

Table with columns: 項目, 予算額, 決算額, 摘要. Rows include 会費, 入会金, 賛助金, 寄付金, グッズ, 雑収入, 繰越金, 繰入金, 合計.

《歳入の部》

Table with columns: 項目, 予算額, 決算額, 摘要. Rows include 事務費, 会議費, 事業費, 慶弔費, 製作費, 積立金, 雑費, 予備費, 合計.

▼今後、会計監査をへて、役員会と総会で審議していただく
▼HCD=総会時のホーム・カミング・デー(母校へ帰る日)事業

会員の寄贈著書(23年度)

中7回・故渡邊卓郎「触媒化学」(大阪市立工業研究所)
齋藤甲馬(中11回)と宮代「世界のどこにもないまちを創る」(齋藤甲馬の本制作委員会編著) ▼中44回生随筆集「獅子たちの記録―八十路翁斯く生きたり」(辰巳会)
高1回・村山吉廣「藩校―人を育てる伝統と風土」(明治書院) ▼高10回・松橋利雄「光陰」(本阿弥書店) ▼高14回・佐久間健「徹底検証・グローバル時代のトヨタの危機管理」(芙蓉書房出版)「企業力は「広報」で決まる―戦略的広報と危機管理コミュニケーション」(同) ▼高15回・齋藤英雄「続々齋藤火出男句文集」(三協美術印刷) ▼高16回・中田雅敏「家庭は子どもを育てる原点」(勉誠出版)

高27回・伊藤文生「新明解現代漢和辞典」(三省堂、共編) ▼高33回・土屋信彦「会社を辞めるときの手続き・得ガイド」(アニモ出版) ▼高34回・石崎幸二「第四の男」(講談社) ▼高47回・篠宮隆三「ブルー・ゾーン」(牧野出版、プロフリーダイバー) ▼木寺祥友「初代木寺柳次郎校長のひ孫」(アンドロイド・ジャパン) / 日本企業の命運を